

巻頭言

こと あ  
言挙げせず

Naomi KAWASE

河瀬直美 (映画監督)



生まれ育った奈良で映画を撮り続ける。『殞の森』(2007)でカンヌ国際映画祭グランプリ受賞。『玄牝—げんぴん—』などドキュメンタリー作品も多数。なら国際映画祭ではエグゼクティブディレクターを務める。宇多田ヒカル最新曲『桜流し』のミュージッククリップを制作するなど幅広い分野で活躍中。最新劇映画製作準備中。公式サイト [www.kawasenaomi.com](http://www.kawasenaomi.com) 公式ツイッター @KawaseNAOMI

奈良の吉野には丹生川上神社が三社あり、それぞれに上社、中社、下社と名付けられている。その下社の宮司さまとお話する機会を得、いのちやこころに関することを深く感じる時間をもった。

下社のある吉野郡下市町は、ごろごろ水を汲みに行く途中で通る場所だ。ごろごろ水とは、大峰山脈から湧き出る清水でアルカリ成分が多く、身体にとっても良い。そこで、おとしの秋から我が家の飲み水と調理に関わる一切のものにこの水を使用している。丹生川上神社は今から千三百年前に天武天皇が創建し、雨を司る神様を祀る。つまり日本最古の水の神様がいらっしゃる場所というわけだ。

水は人間の身体のほとんどを占めるとも大切なものである。その清らかなものを体内に宿すことで、こころも清らかでいられるだろう。ましてや人間が生きる上で必要な作物はこの水がなければたちまち枯れてしまう。

いつのころからか、外国産の水を販売し消費するようになった日本人ではあるが、本来は山を守りそこに湧き出る清水からいのちをいただくことに感謝をする生き方が主であったはずだ。けれども経済優先の時代であって、苦勞の末の約束されない恵みよりも、お金を出せばすぐに手に入る簡単な生き方を選んでしまっている現実。

どうすれば本来の日本人としての精神世界の豊かさを取り戻せるのだろうと宮司様に問うたところ、こんな答えが返ってきた。

「『言挙げせず』という言葉を知っていますか？」

勉強不足のわたしは「いいえ」と答える。そんなわた

しに宮司様はやさしく、これは万葉集の中に出てくる言葉で日本独自の精神を伝えるものだと説いてくださった。

さて、「言挙げ」とは。「言葉に出す」という意味だそう、ならば「言挙げせず」とは「言葉に出さない」ということだ。それは「主張」を第一に掲げ、グローバル時代をゆく人々にとって「??」の答えだろう。しかし、かつての日本人は他者の感情を察し、こころを感じ、お互いの、言葉ではない精神部分をもっとも重んじながら会話をしてきたのではなかったか。

余談だが、20代の頃おつきあいをしていた彼に手紙をしたためたことがある。内容はこうだ。

「言葉ではわたしの気持ちが伝わらない。言葉なんてなければいいのに。ただ、そばにいて触れているだけでいい」

自分がまだまだ成熟したこころを有していないのに、想いだけは万葉人と近いものがあつたのか。

それはさておき、こころがいかにか自分を複雑化させているか、本来のそれがいかにかあさはかであるか、に思い至れば、その逆、いかにシンプルにまっとうであれるのかに力を注げばいいのだ。そうして、自分というものが元氣であって、「言挙げせず」とも他者のこころを思いやる清らかで優しい精神を持ち合わせたい。なんでもかんでもルールや規則でがんじがらめになり人を信頼できない社会よりも、そういったものがなくとも人を信頼し、成熟した社会に生きる自分として立てるよう、まずは自分のこころを磨こうと思う。きっとそれは美しい日本の、いや世界の到来とも結びついているはずだから。